

2017年9月28日

NHK奈良放送局  
村田 直樹 局長 殿

NHK問題を考える奈良の会  
代表 佐藤 真理

### 今次衆院選の選挙報道についての要請書

10月10日公示、10月22日投票で総選挙が実施されます。この選挙は、現政権与党が憲法改訂を公約に掲げ、その結果は日本の進路に大きな影響を及ぼすものと考えられます。

選挙報道に際しましても、特に放送法第4条、国内番組基準、放送ガイドラインを遵守して公平・公正な報道をされることを強く要請いたします。

さらに、放送法は法の目的を、「放送に携わる者の職責を明らかにすることによって、放送が健全な民主主義の発達に資すること」（第1条3号）と規定しており、そもそも放送には、「民主主義の発達に資する」任務があることを明言しています。

選挙報道は、放送が民主主義の発達に貢献する最も重要な機会です。しかるに、直近の2014年12月総選挙、2016年7月参院選でのNHKの選挙報道について、多くの重大な問題が指摘されました。

（参考：「放送を語る会」のモニター報告書

- ① 2014年総選挙・テレビ各局ニュース番組を検証する、
- ② 2016年参院選・テレビニュースはどう伝えたか ～憂うべき選挙報道の現状～）

これを踏まえて、今次の衆院選に関わる報道につきまして、以下のことを強く要請いたします。

1. 質量ともに充実した報道を行うこと。
2. 選挙の争点に関して、有権者の政治的判断、政党選択に役立つ情報を多様にかつ掘り下げて提示すること。
3. 選挙報道には、選挙に関連する社会の動きや話題、政党、政治家の動きなどを伝える「選挙情勢報道」と、選挙の争点に関して有権者に判断の材料を提供する「選挙争点報道」があります。「争点報道」がより重要であり、こちらに重点を置くこと。
4. 候補者の扱いについては、大政党に有利にならないよう、政治的公平性が貫かれること。

折角の機会ですので、最近の報道番組につきまして申し述べます。

加計学園の獣医学部新設問題に関する報道は、2017年6月19日の“クローズアップ現代+”において、「波紋広がる”特区選定“～独占入手加学園”新文書“～”のタイトルで放送されました。前半は、これまで放送法違反（含む国内番組基準・放送ガイドライン）を繰り返してきた報道姿勢に比べると、変化の兆しがうかがわれるものです。しかし、後半は、政治部原聖樹記者が出演し、官邸の方針に沿う解説を行いました。これに対し視聴者（611名）が政治部原記者に質問書を提出しましたが、木で鼻をくくったような回答で、放送ガイドラインを遵守する姿勢、視聴者・市民団体の声に真摯に耳を傾ける姿勢の欠如がみられ危惧を禁じ得ないところです。

一方、今夏、放送されましたNHKスペシャル「本土空襲全記録」、「731部隊の真実」、「知られざる地平線」、「戦慄のインパール」、及び、ETV特集「告白～満蒙開拓団の女たち」は、NHKならではの取材力を生かして、過去の真実に迫る内容であり見ごたえがありました。戦後72年に当たり、我々が戦争の本質とはどういうものか改めて考える機会になる優れた番組であります。

これらの番組を制作された部署、スタッフの皆様のご健闘に敬意を表するとともに、今後の一層のご活躍を期待いたします。

以上